



地域にはいろいろな  
思いがあふれています。  
その思いをキャッチして  
つないでいきます。



わくやの生活支援コーディネーターは

つなぐ  
くる



生活支援コーディネーターハンドブック



## 生活支援コーディネーター誕生の背景

高齢化の進展に伴い、地域では単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者など、医療や介護サービス以外にも在宅生活を送るうえでのサポートを必要とする世帯が増加してきました。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、行政のみならず、地域住民をはじめ、ボランティアや民間企業、NPO、社会福祉法人等の多様な主体が協力し合い、皆で支え合う地域づくりが求められています。

生活支援コーディネーターは、平成27年4月の介護保険改正により、地域支援事業に位置づけられた生活支援体制整備事業において、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を進めていくことを目的に設置されました。涌谷町の場合は、涌谷町社会福祉協議会に配置し、地域づくりに取り組んでいます。

生活支援体制整備事業では、「年を重ねても、住み慣れた場所で、自分らしくいきいきと暮らし続けることができる地域づくり」を目指しています。

### 助け合いで生活を支える

暮らしの中の困りごとを把握し、解決につなげる手段を地域住民と一緒に模索します。「地域の困りごとは地域のちからで！」を合言葉に、住民同士の助け合いの活動を推進します。



### 自分の元気は自分でつくる

お茶っこ飲み会や体操、脳トレ、趣味活動などを通し、健康づくりや他者との交流ができるように支援します。

また、得意なことを活かした活躍の場をつくり、高齢者の方の社会参加を促します。

## 生活支援コーディネーターの役割

暮らしの中の困りごと（ニーズ）を見える化しながら、地域の団体やボランティア、NPO、社会福祉施設、企業等と協働し、地域全体で高齢者を支える体制づくりを地域の方と一緒に進めていきます。涌谷町では、生活支援コーディネーターを「つなぐ専門職」とし、その役割を「つなぐ」「つくる」としています。

①つなぐ：地域にたくさん足を運び、情報や人の行き来する「道」（ネットワーク）を作り、それぞれの強みを活かして困りごとをカバーし合うことができる体制を整え、新たな協働を生み出します。

②つくる：既存の資源では対応しきれない場合は、活動や担い手の発掘・育成、仕組みづくりなど、資源の開発に取り組めます。

# 生活支援コーディネーターの活動は3ステップ!

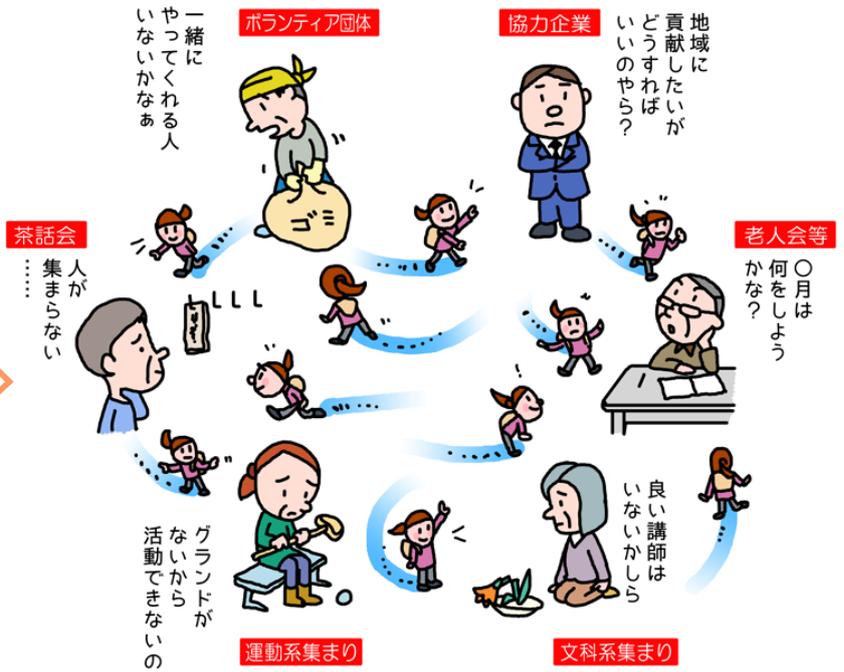
**ステップ1**  
個人・団体の活動の場などに足を運び、情報を収集します。

※間を走り回っている女の子が生活支援コーディネーターです。

**ステップ2**  
それぞれから集めてきた情報（できること・協力してほしいこと）をつなぎ合わせ、調整します。

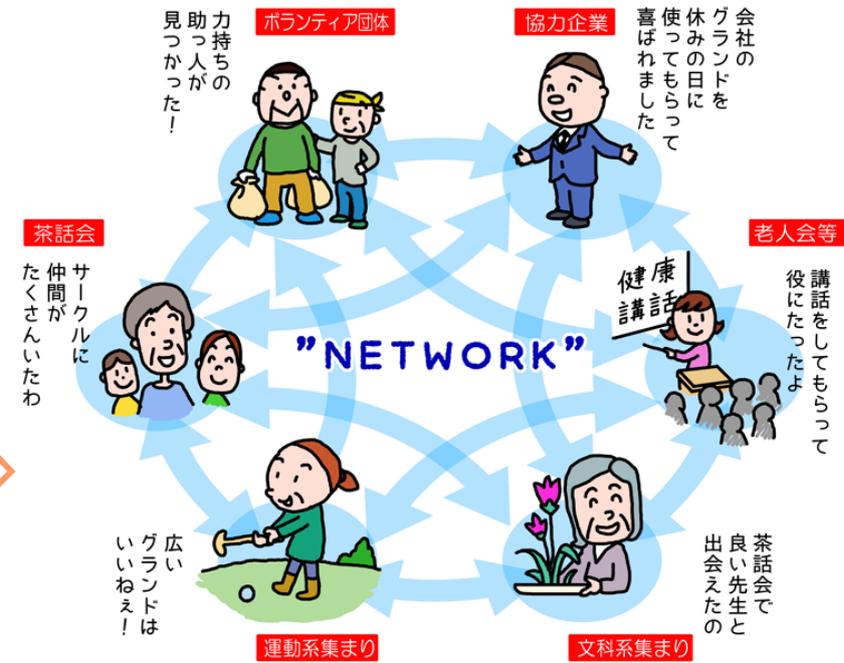
**ステップ3**  
「人」「場所」「情報」「支援」「気持ち」をつなぎ、新たな協働をつくれます。

例) サロン、生活支援活動、社会貢献活動など



© 横浜太陽会

いっぱい歩くうちに道ができてきて...



© 横浜太陽会

つづいて、涌谷町の生活支援コーディネーターの活動の一部をご紹介します。  
次のページへ!

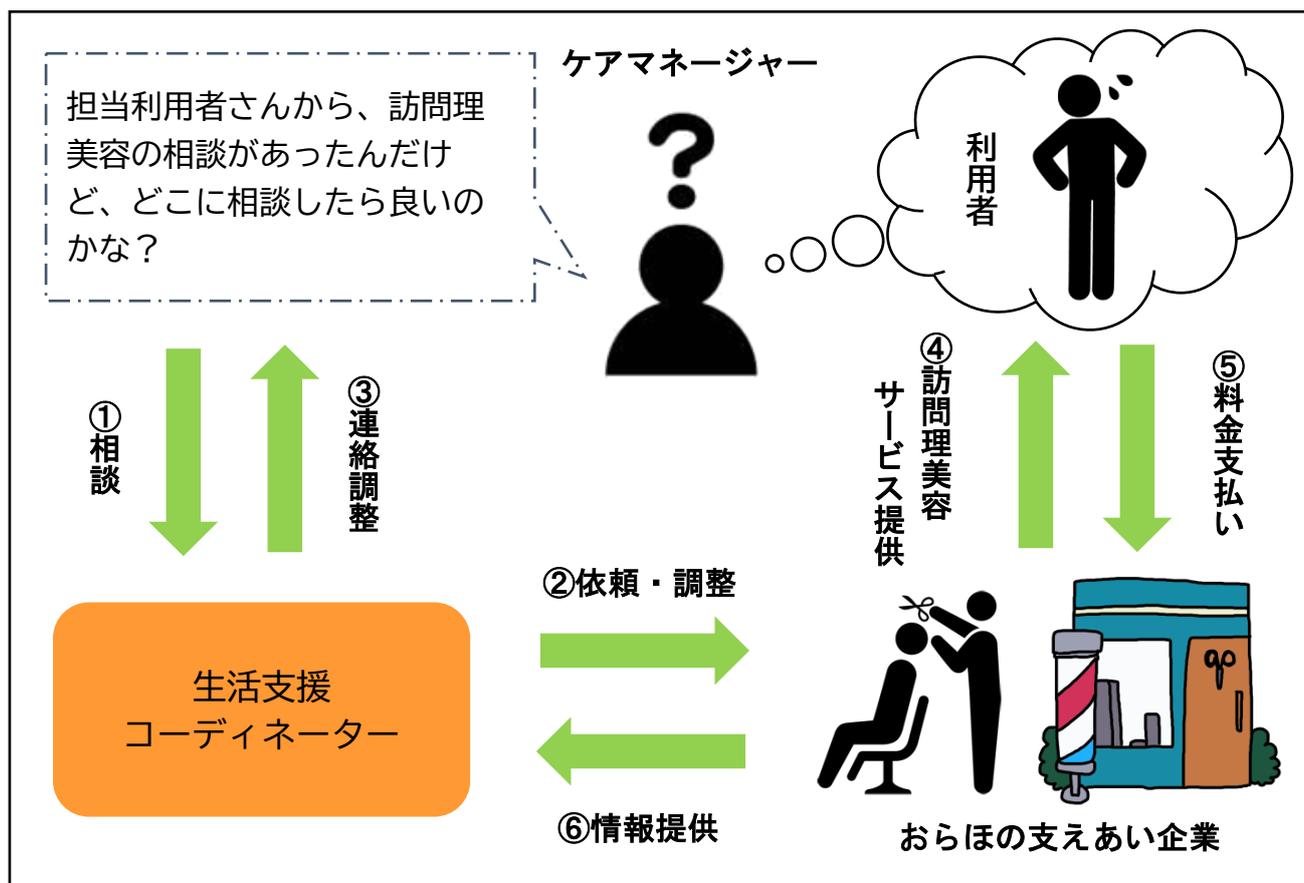
## わくやの生活支援コーディネーターの役割 その1

わたしたちは、つなぎます！



暮らしの中の困りごと（ニーズ）と、既存の資源をつなぎ、解決を図ります。

事例 「髪を切りたいけど、お店まで行くことが難しい…」



### おらほの支えあい企業とは…

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、高齢者や障がいをお持ちの方、妊娠中の方などが日常生活を送るうえで、ちょっとした手助けが必要になったときに活用することができる、暮らしを支える様々なサービスを実施している事業所のことです。

【協力事業所数】

買い物  
19 事業所

理美容サービス  
3 事業所

見守りサービス  
3 事業所

※おらほの支えあい企業については、現在も調査中です。協力事業所数は今後も増えていきます。

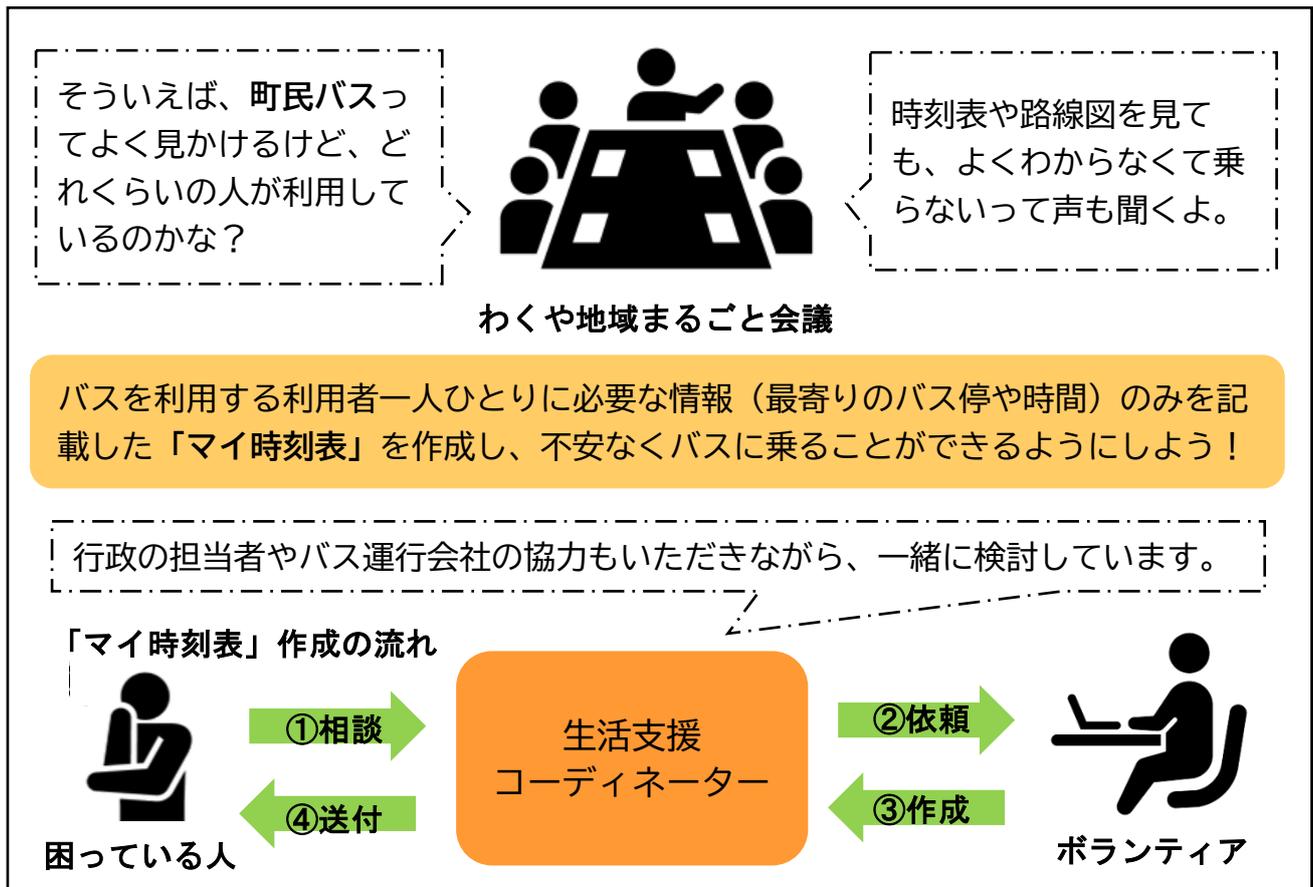
## わくやの生活支援コーディネーターの役割 その2

地域の皆さんと一緒に、つくります！



つなぐ資源が不足している場合や、活用するための仕組みが必要な場合は新たに開発します。

### 事例 「町民バスをもっと便利に活用したい！」



### わくや地域まるごと会議とは…

生活支援体制整備事業において、生活支援コーディネーターと2本柱となる「協議体」のことです。協議体は、地域の多様な主体がメンバーとなり、地域の情報（資源や課題）を共有したり、自分たちが暮らす地域をより良くするためにどうしていくかを話し合う場です。必要な資源や「こんなものがあつたらいいな」を考え、それを地域の中から探して育て、不足している資源を必要に応じて作り出す役割を持っています。

【構成員】ボランティアの会、老人クラブ連合会、シルバー人材センター、民間企業（OB会含む）、商工会、福祉事業所（障がい者支援・生活困窮者支援）、地域の役職者、行政、社協（生活支援コーディネーター）

まずは生活支援コーディネーターへご相談を！

「地域の中で〇〇さんを見守ってほしい」

「〇〇さんが通える、人と交流できる場はないのかな？」

「〇〇さんが庭の手入れのことでちょっと困っているんだけど…」

利用者の方の生活を支えることを考えたとき、公的サービスだけではカバーできない暮らしの課題が出てくることもあるかと思います。そんなときは、ぜひ生活支援コーディネーターのことを思い出してください。



地域の中には、実は多くの資源があります。もし、その中に解決につながるものがなければ、「これがあったら、もっと良くなる」ということを一緒に考えていきましょう。皆さんから寄せられた相談がきっかけで、新たな助け合い活動が生まれる可能性もあります。

生活支援コーディネーターは、地域に身近な存在であり、地域（住民）と専門職との橋渡し役です。住民の困りごとは、一度地域に投げかけてみると、思わぬつながりから解決することもあります。「ちょっと相談してみようかな」「もしかしたら、解決できるかも？」というときは、涌谷町社会福祉協議会の生活支援コーディネーターまでご連絡ください。

問い合わせ先

社会福祉法人涌谷町社会福祉協議会  
地域福祉課 地域支援係

〒987-0121

宮城県遠田郡涌谷町涌谷字新下町浦 192

TEL : 0229-43-6661

FAX : 0229-43-6670

E-mail : wakusya02@wakuya-sfk.net

学びあおう

支えあおう

通じあおう

